

露地ナスの土着天敵保護体系下におけるカスミカメムシ類の防除

○竹中 勲

奈良県農業研究開発センター

奈良県では水田転換畑での露地ナスの栽培が盛んである。しかし、近年はミナミキイロアザミウマ（以下、ミナミキイロ）に効果の高い殺虫剤が少なく、その被害を抑制することが困難な状況である。そこで、奈良県では選択性殺虫剤の使用によりヒメハナカメムシ類（以下、ハナカメ）等の土着天敵を保護すると共に、マリーゴールド等天敵涵養植物の植栽により土着天敵を強化する「土着天敵保護体系」を導入し、ミナミキイロの防除に取り組んでいる。本体系により、ミナミキイロによる果実被害はよく抑えられている。一方、カスミカメムシ類（以下、カスミカメ）による新梢の被害が顕著となってきたため、本種の防除について検討した。

まず、ナス圃場とその周辺におけるカスミカメの発生とその被害の消長を調査した。2014年5～10月に県内3カ所の土着天敵保護圃場において、ナス新梢部のカスミカメ寄生個体数と被害、周辺雑草のすくい取り調査を行った。周辺雑草では5月中旬よりカスミカメ幼虫が認められた。ナス圃場では5月下旬～6月上旬にかけて成虫が認められ、これ以降新梢の被害が発生した。被害発生時期、発生程度は圃場によって異なるが6月中旬と7月下旬に多い傾向がみられた。8月下旬以降は成幼虫ともに認められず、被害も減少した。

次に防除薬剤について検討した。カスミカメに適用のある薬剤では、ピリフルキナゾン水和剤がハナカメに影響が少ないことが報告されている（北村ら、2016）。併せてカメムシ目に対する防除効果の高いジノテフラン水溶剤を検討した。まず、両剤の散布が植物へのハナカメの定着に与える影響を調査した。ハナカメの好む植物（宿根バーベナ）を植えたポットに予め薬剤を散布し、処理7、14、21、28日後にナイロン製ケージ内に処理ポットを同心円状に交互に静置した。その中心にタイリクヒメハナカメムシ成虫約100頭を放飼し、48時間後の生存虫数を計数した。ピリフルキナゾン水和剤は散布7日後では有意な影響があり、14日後も程度はやや低い影響があった。ジノテフラン水溶剤は14日以上の影響があった。次に2015年、2016年の6～9月にピリフルキナゾン水和剤及びジノテフラン水溶剤の散布回数および散布間隔の異なる延べ35圃場において、カスミカメによる被害、ハナカメ及びミナミキイロの発生消長を調査した。無散布の圃場ではカスミカメ被害が大きかった。ピリフルキナゾン水和剤を散布した圃場では、カスミカメ被害は減少～横ばいで推移し、効果はやや低い防除効果が認められた。しかし、2回以上散布した圃場ではハナカメが減少し、ミナミキイロが増加する傾向が見られた。ジノテフラン水溶剤を散布した圃場では、カスミカメ被害は抑制された。しかし7月下旬以降に防除を行った圃場はハナカメが減少し、ミナミキイロが増加する傾向がみられた。7月上旬の防除ではハナカメへの影響、ミナミキイロも少ないことから、この時期の防除が有望と考えられた。

Control of *Lygocoris* spp. in conservation biological control system of eggplant field

Isao Takenaka

Nara Prefecture Agricultural Research and Development Center